

羅 針 盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①ICT教育を推進している本校の教育活動に積極的に取り組んでいると自己評価している生徒が75%以上である。
		②部活動を推進している本校の取り組みに所属生徒の75%以上が積極的である。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業が分かりやすい」と生徒の80%以上が答えている。
		④資格取得に向けた指導に生徒の85%以上が意欲的に取り組んでいる。
	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑤学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が75%以上である。
		⑥全商関係の検定試験合格率が70%以上である。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学年会議・校務運営委員会・職員会議等で生徒に関する情報交換を毎週実施し、教職員の連携強化を図っている。
		⑧生徒会行事や各種専門委員会など、生徒会活動が充実していると評価した生徒が70%以上である。
		⑨校内の美化・安全点検を各学期に1回以上実施している。
		⑩いじめの防止に努め、いじめの解消率が100%である。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪家庭との連携を密にして欠席率・遅刻率が1.0%以下である。
⑫挨拶や服装、遅刻防止指導など学校の生活指導は充実していると感じている生徒が85%以上である。		

方 策
<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な授業取り組みを目指した指導の実践</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況及び大会等の成果の確認</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かい指導の実践</li> <li>授業アンケートによる実態把握</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>検定試験等合格に向けた授業の改善及び補習等の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導の充実、定期試験対策補習等の実施</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>簿記、情報処理検定試験合格に向けた授業の工夫・改善と生徒の実態に応じた補習等の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議、学年会議、運営委員会での情報共有</li> <li>アンケート調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会・専門委員会の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設委員を活用した校内巡視による点検後、点検一覧表の作成</li> <li>空き教室利用や机イス等の更新</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートの実施</li> <li>教育相談アンケートの実施・面接</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な登校時指導、遅刻防止指導の実施</li> <li>保護者への協力・支援</li> <li>欠席・遅刻・早退率の把握</li> <li>10分間読書の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な登校時指導、遅刻防止指導、服装指導の実施・保護者への協力・支援</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>

第1回点検・評価			第2回点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
A	A	ICT機器の数が不足しているため、段階的に機器を買い足していくとともに、適正な管理を行い故障等によって使用に支障を来さないようにする。	A	A	授業等への取組については高い評価ができるが、家庭に於ける学習状況は期待通りではない。家庭学習に取り組みさせる工夫が必要である。
A	A	高校総体では多くの部活動が活躍し上位大会に出場した。部内の世代交代においてよき伝統を継承する。	A	A	運動部、文化部とも上位大会で活躍した。部活動の活性化が他の学校生活の充実へ繋がるよう努力する。
A	A	ステップアップサポート事業の一層の推進・充実を図る。関連して授業アンケートを実施する。	A	A	ステップアップサポート事業については研修等を行い実践をしてきた。授業アンケートの結果を元に改善を図り、生徒が自主的に活動し学ぶ環境を作る。
A	A	オリエンテーション等により検定試験や資格取得の重要性を深く理解させる取り組みを行った。今後も進路指導等を絡めて意識高揚を図る。	A	A	生徒の資格取得に対する意欲は高い。全商協会の資格にとどまらず、より高度な資格取得に取り組ませたい。
A	A	朝学習、成績不振者補習、部活動単位での学習会など対策が講じられている。協働学習や言語活動の充実を図り学習事項の定着を図る。	A	A	協働学習や言語活動の充実を図る努力により、能動的に学ぶ意識をさらに高め問題解決能力の向上を目指す。ノート導入により文章力向上が認められる。
B	-	1学期終了時点では、合格率が56.0%であった。2学期以降の検定試験で合格率向上を図りたい。	C	-	2学期終了時点では、合格率が50.6%であった。3学期の検定試験では簿記週間の設定等とおして合格率上昇を目指す。
A	-	各学年、運営委員会、職員会議等での情報交換を密にし、教職員間の共通理解を深める。連携して問題解決を図る。	A	-	各種会議、各委員会等で情報交換を行った。教職員間の共通理解はあっても、具体的な効果的に連携して指導する点において改善を行うための組織の見直しを行う。
A	A	生徒会が中心となり生徒の意見集約を行う。また委員会活動の生徒発表を全体で行うなど検討する。	A	A	清瀬祭を毎年開催するなど生徒の生き生きとした活動の機会を設ける。また行事の効率的な運営を目指す。
A	-	校内清掃設備の調査を行い備品の交換等を行った。今後も危険箇所等を優先的に対処していく。	A	-	教室の机や椅子等の更新を進めている。危険箇所の改善も進めた。またゴミの分別など新たな取り組みも始める。
B	B	いじめは問題把握が難しい面もあるが、集会、アンケート等とおして早期に芽を摘む。	B	B	アンケートや面談等はいじめを早期発見し、早期対処を行ってきた。今後も問題が多くなる前に芽を摘んでいく。
A	A	1学期時点では欠席率0.6%、遅刻率0.2%、早退率0.2%であった。長欠・欠席がらの生徒や入院を要する生徒もいた。欠席率、遅刻率、早退率ともは昨年度同時期とほぼ同水準である。	A	A	2学期時点で欠席率0.8%、遅刻率0.3%、早退率0.2%であった。長欠や入院を要する生徒もいた。昨年度同時期と比較し遅刻、早退がやや増加している。朝読書は今後も実施し読書習慣を付けさせる。
A	A	朝の玄関指導をはじめ各学年で機会を捉えて粘り強い指導が行われている。今後も式典など折に触れて指導をしていく。	A	A	粘り強い服装指導により対外的にも指導の充実は評価されている。よき集団によりよき個が形成される指導を継続する。

※ 自己評価・外部アンケート等：個々の具体的数値項目について評価し、次に従いアルファベットで記入した。

桐生市立商業高等学校（全日制）

学校評価一覧表 ①（平成27年度版）

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑬学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路のてびき」の活用及び「進路ガイダンス」や講演会など外部機関との連携による進路指導の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	保護者会等でも進路に触れ、本校の方針や多様な進路について理解を深めてきた。外部講師の活用等を進め進路意識を高めていく。	A	A	3学期には進路ガイダンスを実施する。また、進路のてびき等を用いたLHR進路学習も行う。進路指導室を保護者に開放したり、求人票や指定校推薦情報を保護者にも配付する等行う。
		⑭進路通信を年間12回以上発行し、生徒・保護者へタイムリーな情報を提供している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な「進路たより」の発行</li> <li>3学年へは具体的情報を提供</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	毎月その時期にあった内容のたよりを1学期終了時点で4号発行してきた。今後も「今高校生に何が求められているか」に関して情報を発信していく。	C	C
	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について真剣に考えている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業体験等によるキャリア教育の充実</li> <li>ホームルーム活動や教科における進路学習の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	就業体験も含め、学年行事、学級活動、授業等と、職業や生き方に関わる学習はいろいろな場で指導している。進路学習を職員全体で指導できるよう連携を図る。	A	B	外部から講師を招いて講演を行い教育効果を上げた。今後も授業確保を進めながら計画したい。
		⑯進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の充実</li> <li>早期の進路目標設定と個に応じた指導の実践</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	各学年に応じた進路指導を進路指導部と学年とが連携して行っている。今学習していることや資格がどう将来につながっていくかLHRや学年集会等で指導する。	A	B
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰学年別保護者会に積極的に参加している保護者が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年保護者会等、PTA主催行事への積極的な参加及び行事内容等の充実</li> <li>ホームページの充実</li> <li>地域社会への情報提供</li> <li>地域との文化祭やカルチャー講座等を通じた交流</li> </ul>	A	A	3学年は228/234で、97.4%、2学年は240/243で、98.8%、1学年は233/242で、96.3%。他の行事でも多くの参加が期待できるよう、内容や実施方法など工夫したい。	A	A	清瀬祭でのキッズビジネスタウンの試みは今年初めての試みであったが、200名を超える地域の小学3, 4年生が参加し、生き生きとした交流が行われ好評であった。来年度も継続する。大雪や台風に対する対処について迅速な情報提供を工夫する。
		⑱学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業等で学校の教育活動を理解できたと感じる参加者の割合が85%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化部及び運動部を中心とする各種カルチャー教室の充実や地域諸行事への積極的参加</li> <li>桐商たよりの配布</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	学校説明会では、保護者の93%、中学生の92%が理解に役だったと回答している。今後も中学校へ出向いての説明会、合同説明会、ホームページの充実など本校の教育活動を理解してもらう努力を継続する。	A	A

※ 自己評価・外部アンケート等：個々の具体的数値項目について評価し、次に従いアルファベットで記入した。